

# 波照間島教材 解説

1. 波照間 まつりと人びと
2. 波照間のサトウキビ
3. たまにはあたらなかったのに

## 1. 波照間 まつりと人びと

松澤美枝

本章のねらいは、八重山の歴史あるまつりや多彩な芸能を子どもたちに紹介するとともに、まつりのもつ機能を認識させることにある。まつりは人々の娯楽であるだけでなく、地域の人々や観光客といった、人と人との団結を強固にしたり、交流を活発にする役割を果たしている。このようなまつりの側面を理解させ、地域のまつりに対する新たな視点を養わせることを意図している。この章の学習をとおして、これからの竹富町を担っていく子どもたちに郷土の文化への理解と誇りを持ってほしいと考える。

〔各節のねらい〕

### 1. 竹富町のまつり

この節では、まず竹富町のまつり・伝統行事を紹介し、子どもたちの地域のまつりに対する認知度、まつりへの関与の度合いを探る。竹富町の代表的なまつりを表にあげ、それに印をつけさせた後、子どもどうしてその表を見せ合うことによって「まつり体験競争」的な展開になることを予定している。

### 2. 波照間島のムシャーマ

この節では、波照間島のムシャーマを取りあげている。たかし君の家族がムシャーマに参加する過程を一緒に追いながら、波照間島の人々がまつりの中で年齢に応じた役割を果たしているという、ムシャーマの性格を認識させるのが目標である。

### 3. 神さまがやって来る

この節では、八重山のまつりに特徴的なミルク神を取りあげ、すでに親しみのあるミルク神への理解をさらに深めてほしいと考える。ミルク神とブーブザーの関係や性別をクイズ形式で考えていくことによって、新鮮な驚きや発見が伴い、楽しく学習できるのではないだろうか。

### 4. ムシャーマと人びと

この説では、これまでの学習からムシャーマというまつりの性格やそれが持つ機能

を確認し、各自の住んでいる地域のまつりと比較させる。まつりのいろいろな側面に気づかせ、地域のまつりに対する新たな視点を持つことをねらいとする。

## 2.波照間のサトウキビ

大城美奈子

波照間のさとうきびの糖度が高い理由について、今回の調査で新たにわかったことを取り入れることで、波照間のさとうきびの特徴を子どもがより深く知ることができるのではないかと思い、「製糖工場のおじさんの話」という形で教材を作ることにした。しかし、これだけだと子どもの受けるインパクトが薄いので、糖度計をもとに探っていくという形でつなげ、子どもが興味を引くように工夫した。また、島民の方にうかがった話によると、波照間ではさとうきびだけでなく、他の作物の糖度も普通より高いらしい。もしかしたら波照間の糖度の秘密には地質的な理由も大きいのかもしれない。

そういったことも含めて、もし可能であれば、製糖工場から糖時計をお借りして、授業の中で糖時計に触れ、実際にさとうきびや他の作物などの糖度を計ってみる、といったことをすると、子どもがわくわくしながらさとうきびについて学べてとても楽しい授業になると思う。

## 3.たまにはあたらなかったのに

小堀環

この戦争マラリアの調査を行っている時に、一番に感じた事は、この事実を多くの人に知ってもらいたいという事でした。私自身、この調査を開始するまで、戦争マラリアについての知識は全くといっていいほどありませんでした。調査を進めていく中で、遺族の方々のお話をお聞きしたり、慰霊の碑を見たりして、私の戦争マラリアに対しての知識が増えてくるにつれ、「この事を知っている人は一体どれくらいいるのだろうか」という疑問が湧いてきました。

戦争が終結してから長い年月が経った今、戦争を体験した方は少なく、「戦争の風化」などという言葉まで使われています。戦争マラリアという事実は、沖縄戦の陰に隠れ、広く知られていないというのが現状だと思います。私がお話をお聞きした遺族の方々には、戦争マラリアについて多くの資料や文献をもち、自分たちが体験した事について、かなりの知識をお持ちでした。「本当のことを知りたい・本当のことを伝えたい」という気持ちがそうさせていたのだと思います。

この教材を使って学ぶ子供たちには、まずは戦争マラリアがあったという事実を知って

もらいたいと思います。戦争マラリアについては非常に難しく、この教材に盛り込む事ができたのはほんの一握りに過ぎません。ですが、多くの方が亡くなったというのは紛れもない事実で、これが戦争マラリアについて知る第一歩となれば、と思っています。

この調査を行ったことで、多くの知識を得る事ができました。私も戦争マラリアを知る一人として、これからも学んでいき、そして多くの人にこのことを知ってもらえるような努力をしていきたいと思っています。